

校長つうしん No.11



2016.11.22

鈴木 恵一



来週から後期中間考査(11月28日(月)~12月2日(金))。

「テストのための勉強」というとらえ方をしていますか？

定期考査は日頃の学習成果を確認する機会です。その結果を受けて自分の状態を確認し、不足するところを補うことが大切です。なんの関連づけもされずに暗記したことはやがて剥落し忘却の彼方へ消え去ってゆく……歳を重ねると思慮深さという武器を得ることができますが、記憶力を手放したような悲しい気持ちになる私です。年若いとも予習、復習が大切かな。

部活動（全道大会等）の結果 おめでとう！

【囲碁】

男子個人戦Bクラス 西浦 大貴(2年)3位

女子個人戦 播磨 幸奈(2年)2位 梶 麗奈(2年)3位

【文系部】

短歌部門 入選 「街灯が LED に変わるとき」 宮崎 聡美(4-6)

文芸部誌部門 銅賞「泡沫」

いのちの旅

校舎周辺の木々もすっかり落葉しましたね。枯れ葉が風に吹かれて道路や

校舎のわきに吹きだまっている様子を見て、ふと思い出すことがあります。

身内が亡くなったときのお坊さんのお説教です。宗教めいた説法は一切せず

絵本を題材にしてお話されたのがとても印象的で心に深く残っています。

紹介された著書はレオ・バスカーリア著『葉っぱのフレディ - いのちの旅 -』という絵本でした。正直なところ、お坊さんの話なんてうわの空ということが多い私ですが、子ども向けの絵本と侮

葉っぱのフレディ

いのちの旅

レオ・バスカーリア著
あらい ななみ



ることなかれ、これは大人の哲学書に通ずるものだと感じました。

以下にざっと紹介しましょう。



大きな木の太い枝に生まれた、葉っぱのフレディ。

春に生まれたフレディは、数えきれないほどの葉っぱにとりかこまれていました。はじめは、葉っぱはどれも自分と同じ形をしていると思っていましたが、やがてひとつとして同じ葉っぱはないことに気がつきます。

フレディは親友のダニエルから、いろいろなことを教わりま
す。自分達が木の葉っぱだということ、めぐりめぐる季節のこと...

フレディは夏の間、気持ちよく、楽しく過ごしました。遅くまで遊んだり、人間のために涼しい木陰をつくってあげました。秋が来ると、緑色の葉っぱたちは一気に紅葉しました。みなそれぞれ違う色に色づいていきます。そして冬の到来。



とうとう葉っぱが死ぬときがきます。

死ぬとはどういうことなのか...ダニエルはフレディに、いのちについて説きます。

「いつかは死ぬさ。でも ”いのち” は永遠に生きているんだよ。

死ぬということも変わることのひとつなんだよ」



フレディは自分が生きてきた意味について考えます。

「ねえダニエル。ぼくは生まれてきてよかったのだろうか」

そして最後の葉っぱとなったフレディは地面に落ち、ねむりにつきました。

絵本や童話は、架空の人物を用いたり、動物やモノを擬人化しながら、人の心のあり方を中心テーマに据えて描いているものが大半です。読んだ時にはわからなくても、何かしら心のなかに跡を残すものです。

フレディが他の仲間を見て気付いたように、一見するとみんな似ているけれど、それぞれに個性があって違う。そして誰もがどこかで誰かの役に立っている。

たとえ命が絶えても、みんなの心のなかに生き続け、時に思い出として、時に記録や物語として語り継がれていきます。私たちは新しい出会いと命の誕生を喜び、人生のなかで喜怒哀楽を繰り返す、そして悲しい別れも体験します。生きるということは、考えること、哲学すること、喜びもあれば悲しみもあるでしょう。「葉っぱのフレディ」はそんなことを教えてくれます。